

齊藤力教授退職によせて



退職によせて

組織再建口腔外科学分野 齊藤 力

本年3月で本学教育研究院医歯学系の教授を定年退職となります。平成13年11月に常葉常雄初代教授、中島民雄二代教授をはじめとする諸先生方の御努力により築かれてきました大学院医歯学総合研究科顎顔面再建学講座組織再建口腔外科学分野（旧口腔外科学第一講座）に教授として赴任しました。新潟に来たのは11月でしたので、それまでの東京とは違い曇天と寒さが印象に残っております。昭和47年に東京歯科大学を卒業し、同年に同大学大学院歯学研究科（口腔外科学専攻）に入学、当時主任教授でありました高橋庄二郎先生の指導を受けました。昭和51年に同大学院歯学研究科を修了後、直ちに同大学口腔外科学第二講座助手に採用されて以来、診療、研究、教育に従事して参りました。本学に赴任後も、これまでの臨床、研究を継続するとともに新しい分野にも取り組んできました。主な臨床と研究は、顎顔面変形症に関する研究、口唇口蓋裂に関する研究、顎顔面口腔領域の組織再生・再建とその機能評価、歯科インプラントの顎顔面領域再建への応用などがあります。また頭頸部癌の診断と治療に関する研究、歯の移植に関する研究、骨延長法ならびに骨移植術に関する研究にも取り組み、多くの有能な医局員とともに数多くの論文発表や、学会報告を行うことが出来、多少なりとも責を果たせたものと思っております。

本学に赴任後も東京歯科大学時代の患者様が受診してくださり、関東地方の関連病院や開業歯科の先生方からも患者様を紹介していただくなど、多くの方々の支えもあり素晴らしい環境で診療、

研究に取り組むことができました。

特定非営利活動法人日本顎変形症学会理事長を8年間務めさせていただきました。平成16年には朱鷺メッセで開催しました第17回総会の大会長も務めましたが、当分野医局員をはじめ顎顔面口腔外科学分野の医局員など、大変多くの関係者に協力いただき成功裏に運営することができ感謝しております。

私の在職中に大きな変化が数回ありました。まずは平成14年の新潟大学歯学部附属病院と医学部附属病院の統合による医歯学総合病院の設置、平成16年の国立大学法人化、平成18年の東病棟完成に伴う歯科／口腔外科病棟移転と手術室増設に伴う歯科／口腔外科手術室の移転、および平成21年10月の新中央診療棟完成に伴う歯科／口腔外科手術室の再移転などがありました。平成24年11月には新外来棟開院に伴う外来の移転、平成25年1月には歯学部大型改修に伴う研究室の引越もありました。このような変化にも医局員が一丸となり取り組んでいただいた御陰で新しい場所でも円滑にスタートを切ることができました。この度完成した新外来棟では5階の外来手術室に最先端の設備を備えることができましたが、これらは日本国内においてトップクラスと思います。

若い先生方に口腔外科の魅力を伝える際は、口腔外科を学ぶことは歯科医療を行っていく上で全ての基礎になり得るといっています。例えば小さな切開を行う際でも、その先の解剖を知っているのと知らないのでは、そのメスさばきには大きな違いが出ること、つまり自分が今見ている部分の

先を知って手術をするのと知らずに手術をするのでは大きな違いがあること、これらのことは大きな手術を助手として経験するだけでも知ることができること、口腔外科では多くの広範囲の手術を経験することができるので、広い視野を得ることができること等について話をしています。若い先生方には積極的に多くの手術に入り、多くの手術を直に見てもらいたいと思っています。また臨床、研究の場面において疑問が生じたときは疑問を整理し、解決方法を考え、実際にその解決に取り組み、結果について再度考えること、すなわち論文作成と同じ流れになりますが、常にそのことを意識して日々の臨床、研究に取り組むように指導をしてきました。疑問に対して自ら進んで解決方法

を考え調べ解決していく姿勢を若い先生方には学んでほしいと思います。

私の在任中には中越地震、中越沖地震、東北地方太平洋沖地震と大きな天災があり心を痛めることもしばしばありました。しかし強い精神力と行動力で一丸となって復興へ努力する姿を目の当たりにし、むしろ私たちが励まされました。強い精神力と行動力が新潟大学歯学部のある発展に繋がるものと確信をしております。

11年5ヶ月という短い間でしたが、臨床、研究、教育の場を与えていただきました方々に衷心より感謝申し上げますとともに、新潟大学ならびに皆様の益々の御発展を御祈り申し上げます。長い間誠に有難うございました。





齊藤力教授の御定年退職によせて

組織再建口腔外科学分野 小林 正 治

齊藤力先生は、平成13年11月に新潟大学大学院医歯学総合研究科組織再建口腔外科学分野の教授として赴任されました。東京歯科大学に在職中から、学会等で齊藤先生のダンディなお姿と精力的なご活躍を目にしていたので、私としては期待と、またどのような医局運営をされるかといった不安を持ってお迎えしました。しかし私の不安は全くの杞憂で、赴任当初より齊藤先生は気さくに医局の中に溶け込まれ、それまでの当分野の雰囲気崩すことなく新たな息吹を吹き込まれて、この11年間で口腔外科学に関わる研究、教育、臨床において優れた成果をあげてられました。齊藤先生の理念は「患者様の立場に立ったわかりやすく親切な質の高い医療を提供する」という一貫したものであったと思います。そして、そのために必要な意識改革をわれわれにも求められました。一方で、普段はとても温和で笑顔を絶やさないのですが、意外に気が短いところがあります。

「気が長くてはいい口腔外科医にはなれない」というのが齊藤先生の持論です。確かにそうかもしれません。そんな齊藤先生のもとには学内外からたくさん人間が集い、様々な研究テーマで多くの学位取得者を輩出することができました。これも、齊藤先生の人徳によるところが大きいと思います。

また齊藤先生は新潟大学医歯学総合病院副院長、新潟大学評議員、新潟大学副歯学部長、新潟歯学会評議員などを務められ、歯学部ならびに新潟大学の発展と病院運営にご尽力されました。当分野にとっても、医科歯科の病院統合や大学法人化といった激動期の難しい舵取りの中、齊藤先生の豊富なアイデアと強いリーダーシップにより患者数や手術件数を増やすことができ、院内外での確固たる基盤を築き上げることができました。さらには大学内にとどまらず、日本顎変形症学会理

事長をはじめ、多くの学会の役員を歴任され、斯界の発展に尽くしてこられるとともに、厚生労働省歯科医師国家試験委員長も務められ、同省の研究事業として歯科医師国家試験における技術能力の客観的評価に関する研究に携わるなど、歯科医療の質の向上にも貢献されました。

齊藤先生は趣味も多彩で、特に美しい自然や古き良きものへの愛着が強く、思い立つと休日には愛車を駆ってどこにでも写真を撮りに行っています。妻有郷の美しい棚田や田園を走る気動車の写真などについて熱く語るときには、子供の様に目を輝かせており、われわれもつい話に引き込まれてしまいます。そういった齊藤先生の情熱と優しさが、人を魅了するのだと思います。

2月8日には、齊藤先生のご最終講義が「守破離」というテーマで有壬会館において行われました。

「守破離」とは諸武芸の修行段階の教えで、「守」は師匠の教えを正確かつ忠実に守り、物事の基本の作法・礼法・技法を身につける「学び」の段階であり、「破」は身につけた技や形をさらに洗練させ、自己の個性を創造する段階、「離」は「守破」を前進させ、新しい独自の道を確認させる段階とされています。一つ一つの言葉にこだわりを持つ、齊藤先生らしいお話でした。私にとってのこの11年間はまさに「破」の時期でした。「破」には今まで学んで身につけた教えから一歩進めて他流の教え、技を取り入れることを心がけ、師から教えられたものにこだわらず、さらに心と技を発展させよ、という意味もあるのだそうです。齊藤先生が本学に持ち込んだ医療技術や考え方は、私にとっても大変刺激的なものであり、井の中の蛙にならないためにも、常に新たな刺激を求める姿勢が必要なのだと実感しました。私も、齊藤先生のように「離」の境地に達することができるよう、これからも日々精進したいと思います。

最後に、齊藤先生のご退職を迎えるにあたり、先生のご指導を受けた医局員を代表して、先生に対する感謝の意を送りたいと思います。11年間、誠にありがとうございました。今後ともわれわれ

後進に変わらぬ御指導をお願いするとともに、先生の御健勝と益々の御発展をお祈り申し上げます。



講演される齊藤力教授



齊藤力教授を囲んで